

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0292700234		
法人名	株式会社 ヤマショー		
事業所名	グループホーム絆		
所在地	青森県三戸郡南部町大字斗賀字沼田71-1		
自己評価作成日	令和5年8月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和5年10月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>令和元年8月より事業を開始しております。 アットホームな雰囲気、楽しく生活できるように支援しております。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームでは、利用者が重度化しても住み慣れた場所で安心して生活できるよう、看取り介護に取り組んでおり、隣接する有料老人ホームの看護師の協力を得て、主治医や家族と連携を図りながら支援していく体制を整えている。 また、職員が看取りについて理解を深められるよう、勉強の機会も設けており、開設以来3名の看取り介護の事例がある。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間で理念を共有するため、事務所へ理念を掲示し、日々のサービスにつなげている。	ホーム独自の理念を作成し、職員の目に触れる事務室に掲示する等して、意識付けを行っている。管理者・職員共に理念に込められた思いを理解し、日々の業務に反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症第5類への移行のため、町行事や地域行事へ参加できるように体制を整え、面会制限も解除し、面会も行っている。	地域住民3名が運営推進会議のメンバーになっており、地域の情報をいただいている。消防団との協力体制もあり、コロナ禍前は避難訓練への参加もあった。また、開設間もなくコロナ禍となり、地域行事も中止されていたが、今年は隣接する法人施設の利用者と一緒に地域のお祭りに出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域住民の方々にも参加していただき、認知症の方の支援について話し合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行っており、入居者様、ご家族様、町内の方に参加いただいている。会議では毎月の行事や日常生活を写真付きで報告し、意見等をいただいて、サービス向上につなげている。	2ヶ月に1回運営推進会議を開催しており、利用者の暮らしぶりや行事等について写真付きの書類を作成し、報告している。会議では、メンバーから様々な情報や提案をいただいております。サービスの質の向上に活かすように取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政の担当者の方にも運営推進会議に参加していただき、報告や情報交換をしている。また、相談等は随時連絡し、助言等をいただいている。	町の担当課職員が運営推進会議に出席し、制度等について情報をいただいたり、相談や質問を行っている。役場からはFAXやメール等でも情報提供があり、ホームからも空き状況等を報告し、必要時には管理者が役場に足を運び、相談をすることもある。また、今年は国の補助事業を利用し、屋外に自家発電装置と専用の灯油タンクを設置している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会の開催、研修を通じて、職員間で理解を図り、身体拘束を行わない姿勢で取り組んでいる。	指針を作成し、年間の研修計画に組み入れて理解を深めている他、毎月の職員会議の中で3ヶ月に1回身体拘束廃止委員会を開催し、ホームの現状等の話し合いを行っている。玄関は夜間以外施錠せず、いざという時に備えて、隣接する法人内施設から協力が得られる体制を整えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い、職員全体で理解して、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている入居者様があり、制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に書面、口頭で説明し、ご家族様から話を伺い、同意を得て、署名、押印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。面会時や電話連絡の際、意見や要望を伺うようにしている。	職員は利用者との信頼関係を大切にし、気兼ねなく話をしてもらえるように心がけている。家族には毎月利用者の生活状況をお知らせする詳細な手紙を送っており、たくさんの写真も添えている。また、面会時や電話連絡時にも意見を聞けるよう働きかけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議にて意見等を聞き、意見交換できる場を設けている。	職員は毎月の職員会議で自由に意見を出すことができ、日々の申し送りでも意見交換を行っている。また、退職者が出た場合等はケアに支障が出ないように、隣接する法人内施設からの異動で対応することもあるが、利用者との馴染みの関係を大切にするため、異動は行わないようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の状況等を配慮し、公休や勤務体系等を考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に積極的に参加できるように支援し、資格取得についても研修費用を負担する等、スキルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームネットワーク会議に出席し、情報交換や勉強会を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に情報収集し、ご本人様から不安、要望等を伺っている。また、様子を観察しながら、安心して生活できる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に話を伺っている他、都度、電話連絡時等にコミュニケーションを図り、信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に話を伺い、その時に必要なサービスを提供しながら、変化に応じたサービス提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活で個々の能力を見ながら、洗濯物畳みや食器・お盆拭き等のお手伝い等、入居者様同士や職員と一緒に作業を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、利用者の生活状況を写真付きで報告しており、面会時にも様子を伝えている。状況変化や必要時に電話で連絡し、一緒に支え合う関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族・親戚等から電話があった時には取り次ぎ、面会も制限なく、玄関先ではあるが面会をしていただいている。	面会時は玄関にベンチや椅子を置いて、ゆっくりと話をしてもらっている。家族からの手紙を代読したり、返事を投函している他、電話のやり取りもスムーズにできるようにお手伝いしている。また、馴染みの場所に行きたいとの希望が聞かれた時は、ドライブ行事に取り入れる等、希望に沿えるように取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が良好な関係で生活できるように支援している。必要に応じて職員が間に入り、行事やレクリエーションを楽しめるよう、支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等、契約終了時は情報提供を行い、ご家族様からの相談にも対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段からご本人様の言動を観察し、会議にて情報共有に努め、困難時には本人本位に検討している。	職員は利用者との何気ない会話から、思いや意向を把握できるように努めている。重度化等により意向の把握が困難な場合は、面会時や電話連絡時に家族から情報収集したり、行動観察により得た全職員の気づきを話し合い、利用者一人ひとり思いや意向を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にこれまでの暮らしや生活状況を聞き取り、入居後も普段の会話や、必要に応じてご家族様に連絡し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定や食事・水分量、排泄を日々記録し、個々の心身状態を把握している。また、経過記録や日誌への記入により、職員間で情報共有をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が入居者様やご家族様の意向を聞き、ケア会議の情報を反映して、介護計画を作成している。	利用者や家族からの意見や希望を基に、ケア会議で全職員が意見を出し合い、利用者の生きがい作りにつながるような介護計画を作成している。医療面のケアが重視される場合は、隣接する法人内施設の看護師からも意見をいただいている。また、毎月のモニタリングと3ヶ月毎の評価を行い、状態変化等で必要な時には、随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々に日々の様子を記録している。情報を共有し、ケアや介護計画に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	居宅療養管理指導を利用し、必要時には病院受診の支援を行っている。また、歯科往診も利用し、対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に町内会長がメンバーとして参加している。消防署の協力のもと防災訓練を行い、火災時には地域の消防団の協力も得られるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回、かかりつけ医の訪問診療を受けている。また、訪問診療を受けられない入居者様は、ご家族様対応や職員で対応している。特変時にはご家族様、かかりつけ医に状態報告をしている。	月1回の訪問診療があり、それ以外の受診は家族に対応をお願いし、主治医宛ての情報提供書を持参していただいている。また、週1回、隣接する法人内施設の看護師がホームを訪れ、利用者の健康管理を行っている他、体調変化等により他科受診等が必要になった時は、家族に報告し、迅速に受診できるよう、ホーム職員が対応している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する有料老人ホームの看護師の協力のもと、医療機関と連絡、相談、看護ができる体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、医療機関に情報提供を行い、医療機関やご家族様と連絡を取り合い、病状の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を入居時にご家族様に説明しており、ご家族様の意向を聞き取っている。	重度化や終末期の対応について、入居時に指針を示して利用者や家族に説明し、意思確認を行っている。また、隣接する法人内施設の看護師から、24時間体制で協力が得られる他、主治医や家族と連携を図りながら対応していく体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアルを作成しており、研修も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に隣接施設と合同で避難訓練を行っている。また、缶詰や乾麺等の食料を常備している。	年2回、隣接する法人内施設と合同で避難訓練を行っており、コロナ禍前は消防署の立ち合いや消防団・町内会長の参加があり、今後も状況を見ながらお願いしていく考えである。また、災害時に備え、屋外に自家発電機と専用灯油タンクを設置している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格・生活歴を把握し、プライバシーに配慮しながら接している。また、接遇やプライバシー保護について研修をしている。	馴れ合いにならないように気をつけながらも、親しみを感ぜられる声かけや接し方に努めている。職員は利用者一人ひとりの個性を大切に、それぞれのペースに合わせ、プライバシーに配慮したケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃からコミュニケーションを図り、自己決定できる環境作りに努めている。言葉で十分に意思表示できない場合には、表情や反応を読み取り、可能な限り自己決定できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の日課はあるが、入居者様の体調や気分に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様やご家族様の希望を聞きながら、理容をしていただいている。外出時にはおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段は職員が調理を行っているが、行事等では職員、入居者様と共に作り、楽しく食事ができるように心がけている。また、食事後には食器拭きやお盆拭きも行っていただいている。	週2回、職員が近くの産直施設やスーパーに買い出しに行き、庭で育てた野菜を利用したり、行事のある時等は季節の食材を意識する等、利用者に食事を楽しんでもらえるように工夫している。また、可能な範囲で、利用者にも食器拭き等を手伝っていただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事・水分摂取量を入居者様毎に記入し、個々の摂取量を把握している。また、個々の状態に応じ、刻みやトロミ食等で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。自力でできる方は自ら行っていただき、できない方は職員の介助にて行っている。また、義歯洗浄剤を使用し、清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	毎日個々の排泄チェック表に記入し、排泄パターンを把握している。排泄の曖昧な方でも時間や仕草を見ながら誘導し、トイレで排泄できるように支援している。	排泄チェック表に排泄状況を記録し、個々のパターンを把握すると共に、排泄サインを見逃さず、可能な限りトイレで排泄できるように支援している。状態変化が見られた時は、排泄用品や介助方法の変更について随時話し合い、家族にも相談しながら、個々に合った支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに摂取していただくようにしたり、看護師や医療機関と相談し、薬の調整等、一人ひとりに合わせた対応に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴は週2回行っている。拒否見られる時には声がけを工夫し、時間や曜日をずらし、楽しく入浴できるように努めている。	週4日、午前中に入浴日を設けており、拒否が見られた時は声がけを工夫したり、時間を置いたりするが、無理に勧めず、翌日改めて声がけする等、柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の状況や希望に応じて、自由に休息していただいている。安眠できるよう、寝具や居室の温度調整等に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容の説明書をファイルに綴じ、職員が把握できるようにしている。服薬時には見守りや介助により、誤薬、飲み忘れがないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の能力や生活歴を活かした役割を持っていただくように努めている。また、月1回の行事により、楽しみや気分転換に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事にてドライブを企画したり、天気の良い日には玄関先のベンチにて日光浴をしている。また、病院受診等で外出支援をしている。	天気の良い日はホーム周辺を散歩している他、庭でプランターに野菜を植えたり、玄関のベンチを庭に出して日光浴する等、戸外に出て気分転換できる機会を設けている。また、お花見や紅葉狩り等、季節感のあるドライブも計画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は基本的にホームで管理している。ご本人様やご家族様の意向により、所持されている方もいる。ご本人様やご家族様に確認し、支払い等の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様から希望があった時等、電話できるように支援している。また、県外の親族と手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾り付けを行っている。照明や室温等が不快にならないよう、調整、配慮をしている。	リビングや廊下等が広く、妨げになる物もなく、利用者が安心して移動できる環境である。全館エアコンによる冷暖房で、除菌脱臭機できれいな空気を保ち、乾燥対策として加湿器も利用しながら、快適な空調管理を行っている。また、壁には利用者と職員が一緒に作った、季節に合わせた作品を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはテーブルソファがある他、冬には小上がりを作り、こたつを設置して、好きな時に自由に寛げるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスはホームの物を利用させていただいているが、入居時には使い慣れた物を準備していただき、使用していただいている。	入居時に、使い慣れた家具や身の回りの物等を持って来ていただくように説明し、入居後も必要に応じて持ち込みをお願いしている。また、利用者一人ひとりの個性や能力を活かし、居心地良く過ごせる居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室に目印を付け、わかるように配慮している。また、手すりを設置している他、トイレは自動点灯照明があり、廊下も夜間照明を点灯しており、安全に移動できるように配慮している。		